

法政大学校友連合会
茂原支部会報
第5号

発行所 法政大学校友連合会茂原支部
発行人 渡邊光夫
〒297-0016 茂原市木崎118-27
TEL 0475-22-5215

もばら法政

末石恒夫さんを偲んで

秋葉豊稔



平成18年7月1日茂原プラザ平安にて、末石氏（左）
関根潤三氏（中）岩部校友連合会会長（右）

私の末石さんとのお付き合いは、約半世紀にも及ぶものでございます。今思い出しますと、昭和三十五年に法政大学に入学いたしました折、ある先輩に連れられご自宅にご挨拶に伺ったのが最初の出会いでありました。この五十年近くの間、いろいろと薫陶を賜り公私共に大変お世話になりました。

た。しかし、不肖の私でありますので、その十分の一にも届かないのであります。何かにつけてご相談に伺い、いろいろご教示をして下さった方がもう居ないというものは、大変さみしく、また辛いものでもありません。末石さんのご性格は豪放磊落そのものであり、その反面大変極めて細やかな神経の持ち主でもございました。末石さんの逸話の一つを申し上げますと、あれは昭和四十七年に茂原市と本納町が合併しようとする時に、ある地域の方々には合併反対を唱え、旧本納町は真二つに割れ、合併賛成派と反対派に分れて、それは大変激しいものであります。末石さんは、当時の本納町の財政事情も十分弁えて、合併賛成の中核で獅子奮迅の活躍をなさっておりました。その反対派約六十名位揃っているなか、単身で乗り込んで

で、今の時期はこうあるべきだから皆さんに合併賛成をして欲しいと諸々の状況を話し、長時間にわたり合併賛成を説いて、その地域を賛成に廻らせたことも今ではなつかしい思い出でございます。ちなみに、お一人で六十人位を相手に五時間位だとは記憶しております。茂原市との合併も本決まりとなり、当時の町議会議員の現職の方々には、小選挙地区で全員立候補する運びとなり、私も末石さんに師事するようになって、いろいろな選挙のお手伝いをいたしておりました。選挙の投票日前日の昼過ぎ、駅前通りで偶然お会いした時、秋葉君を捜していた、いい処で逢った。用件は、ある候補者がこのままでは落選してしまうので是非実票で五票集めて欲しい。他の者にもそれぞれ割当てがあるので一杯の状態だから何とかして欲しいとのことでありました。その夜にかけ友人・知人の宅に伺い

(二面へ続く)

依頼し、確約を得た旨を連絡いたしましたすと、あの候補の当選も大丈夫だなとおっしゃいました。実際開票してみると、その方は一票差で当選をいたしました。私は、末石さんは選挙の神様だと思つづく思つた次第であります。

それらを考え合せば、末石さんが、法政大学校友会評議員に立候補なされた折り、ご自分はトップ当選できる票があるのに千票前後の票で十番前後で当選し、同志の方々にご自分の票を分け、評議員の絶対数を確保なされ、法政大学の改革にご尽力されたことは、校友の皆様方も十分ご承知でございます。

また、故阿利総長、元清成総長をして改革の為叱咤激励をなされ、法政大学を日本の私学四本の指に数えられる大学になされたことも、末石恒夫さんの力があつたことだと思つております。

末石さんは、大変義理人情に厚く、私はその恩恵を沢山受けた者であります。多くの知人との話でもう末石さんのような方に我々が出逢うことはないであろうと話合つております。

今は唯々、末石さんのご冥福を心から願つております。

(昭和三十九年・社卒)

俳句歴五十年

渡邊光夫

前号(第四号)に「長生郡市の俳句史」の事を載せて頂いた。今回は私の句作暦のこゝとを書かせて頂くことにする。

父が田舎(山梨)の俳句の宗匠をしていたので、小さい時から俳句に興味があつた。高校生の時から始めて、途中俳句どころではなかつた時もあったが、細く長く続けて約五十年になる。今は茂原市に七、八十年続いている「藻の花俳句会」の会長、NPOの花俳句会の講師をやっている。初めて作った句は「早春の村静かなりみそさざい」で高校二年生の時に毎日新聞山梨版へ載つたもので、郷里山梨県の富士北麓で作つたもの。冬になると決まってみそさざいが家の近くへ来て鳴く。「みそさざい」も「早春」も季語で一句の中に二つも入っている事も知らなかつた。今では「静」と言う言葉は使用し

なくとも、もっと静かさを表す句を作るかも知れない。平成八年三月教員生活三十数年という人生の節目にあたって俳句集「みそさざい」を出版し、その記念と千葉県教育功労賞受賞を併せて盛大に茂原平安閣で祝つてもらつた。また、朝日新聞の県内版や千葉日報でも紹介して頂いた。

「みそさざい」の「あとがき」では次のように書いてある。「俳句作りは私の心の糧の一つでもあつた。私の師事した高浜年尾・汀子(ホトトギス)、星野立子(玉藻)、富安風生(若葉)、堤排一佳(裸子)の諸先生選の雑詠欄、朝日新聞、読売新聞(全国版)に載つたものや、各地の句会や吟行句会で詠んで選ばれた中から私の好きな句を六、七句ばかり選んで編集し、教え子や大変お世話になつた大勢の方々へ感謝の気持ちをもつて贈らせてもらう」と。五



百部出版し今は手元に数冊しかない。「みそさざい」の中の句から「房総ふるさと歳時記」へ八十句も載つている

句集出版以後十年ばかり経つたのでその間の俳句も一冊出版出来るだけの量になつた。「長生郡市の俳句史」も出版したいと思つているが、年金生活者であるので考へている所である。

最後に私の俳句で一番思い出に残るものとして「行水に流せば今日の過去なりき」俳誌「ホトトギス」に初めて載つた句で、今はシャワーがあるが、昭和三十年頃でまだ普及していなかった。ホトトギスへ入選すると「赤飯を炊いて祝う」と言われていた時の事である。

(校友連合会監事茂原支部長
昭和三十二年・経卒)

無題

森六一郎

私が法政大学校友会と縁を持つことになったのは、昨年六月に現住地に移ってきて、支部長の渡邊さんに誘われて年末の総会に出席したのが始めである。

大学には昭和三十二年四月に第二文学部地理学科に入学、同三十二年三月に卒業するまでの間、身を入れて勉強したのは、卒業論文に取り組んでいた八ヶ月間だけであつた。素直に云うと入学の目的は、「大学卒、の追加履歴を得ておく事が将来有利になる」と上司から強く奨められており、法政大学を選んだのは、当時学費が一番安価だったからだ。

当時私は国立国会図書館支部上野図書館に勤務していた。国会図書館は、昭和二十一年大内兵衛氏等の設立請願を同年九月に貴族院、十月に衆議院で採択され、それを受けて国会図書館法が翌二十二年三月末可決、四月末公布、五月三日に施行された。一方上野図書館は、明治三十年以来「帝国図書館」の名称で国の中央図書館として存在していたが、昭和二十二年

末にGHQからの勧告として、「上野図書館は、昭和二十四年中に国会図書館に併合されるべし」とされた。その勧告によつて、昭和二十四年四月一日から国会図書館の傘下に入り、支部上野図書館となつた。

一方国会図書館は、本庁舎を持たず、赤坂離宮（現迎賓館）の一部・国会議事堂の尖塔部・三宅坂の旧参謀本部跡地の一部等に分散していた。それでは設立目的の機能が發揮出来ないで、参議院の北側・旧ドイツ大使館跡地等に庁舎建設を始め、昭和三十六年に第一期工事を完了、三地区より資料統合のための大計画を制定していた。私は上野地区資料を移送するためのコンテナ数の積算担当の一員として、連日書庫内を計筆（コンテナの内容積を記した細竹の竿）と記録帳を持って、二人一組で測定していた。そんな事で大学席の方は卒業式に出席した他、各種会合には全て欠席という次第、同期生との連絡

も切れた儘になつていく。私が再度大学との縁が生じたのは、昭和六十年代になつたある日、教養学部教授図書館学担当の小川徹先生が職場に來られて「法政図書館人の会（教員・大学図書館員・卒業生の各種図書館勤務者・受講生等での情報交換・親睦を図る会）を作りたいので協力してほしい」との話しであつた。ほどなく会は設立され、年に一度の総会に十回位参加した。会場は、大学院棟・図書館上の研究室・多摩校舎・ボアソナード・タワーなど大学内各施設を使用したもので各々を見学することが出来た。

この会も、小川教授の退任後、二回開かれたが、ここ数年は連絡のないままとなつていく。

（昭和三十六年文卒）

損害保険ジャパン代理店
損保ジャパンひまわり生命保険代理店

中村保険サービス

中村良逸（昭和44年経卒）

茂原市高師392
TEL 0475-22-2853

うなぎ 天ぷら 仕出し一般

大和屋食堂

大和久俊雄（昭和43年経卒）

茂原市茂原531（一番街中央）
TEL 0475-22-2619

先輩とおまわりさん

佐久間武



大学四年の時、六月に就職も決まり、七月と八月、アルバイトで稼いで、九月下旬から十月上旬にかけて、北海道へ三週間の旅に出た。同級生三人の旅であったが、途中数日間、単独行動を取るようになった。

ある一日、帯広駅に、午後十二時ちよつと前に到着した。泊まるところを教えてもらう為に駅前の交番に行き、

おまわりさんに、

「泊めてもらえぬ旅館を教えてください。」と尋ねた。

「どこの大学か。」と問われたので、

「法政です。」と答えると、太っていた私におまわりさんが、

「柔道部か。」と聞いた。

「囲碁部です。」と答えると、

「柔道部になつてゐる。」と言うので、

「おまわりさん困りますよ。」と言つたが、すぐ電話で、

「オイ、ヒデ、後輩が来てゐるぞ。すぐ来い。」とおまわりさんが電話した。

まもなく先輩がミゼット（オート三輪車）で交番に到着した。

「柔道部かと。」聞かれたので、

「おまわりさんが勝手に言つたのです。」と苦慮しながら答えた。

先輩がミゼットから瓶ビール、二ダースを交番に降ろした後に、

「乗れ」と言うので乗つて待つてゐると、おまわりさんも乗つて来た。初めての土地で、午前零時を過ぎていたのでちよつと不安であつたが、おまわりさんが一緒なので大丈夫だろうと考へた。数分走つて閉店してゐた喫茶店に着き、裏口から入つて炬燵でビールを飲んだ。喫茶店のマスターは、明大OBで、雑談に花が咲いた。三十分程して、喫茶店のマスターにおまわりさんが、レインコートをおまわり制服の上から羽織り帽子を預けた。

又、ミゼットで数分走り、ジスガスカンの店に入った。

なぜ、レインコートを借り帽子を預けたかが分かつた。勤務中のおまわりさんが、いくらなんでも制服姿でジスガスカンの店でビールは飲めませんからね。おまわりさんがジスガスカンを、遠慮なく

「食べる食べる。」ビールを

「飲め飲め」と。生まれて初めて食べたジスガスカンを堪能してゐたら、時間は午前二時になつてゐた。おまわりさんを交番に送り、先輩の家に着いた。

私は、早速先輩に、なぜ二十代の先輩と四十代のおまわりさんが、これほど入魂なのかを質問した。先輩が帯広の柔道選手権保持者で、おまわりさんは警察の柔道部長。毎週、警察で一緒に練習し、練習後は必ず一緒に一杯。其の上、先輩は酒販店の経営者。なるほど、交番にビールを下ろしたわけも了解。

四十五年前のことですので全て時効です。ね！！！！

(昭和三十九年・法卒)



北京五輪壮行会 (六月二十二日)

広告募集

1 枠三千元です。ぜひご協力を
申し込みは10面の《連絡先》古山まで

すがすがしい一日の始まり

新聞記事「子に伝えよ 江戸しぐさ」をよんで

今井富雄

今 職務上、小学校や中学校を訪問する機会を得ている。その折、当該の校長や教頭から学校経営の方針や運営上の課題について話を伺うことが多い。

各学校は、知育・徳育・体育の三点からの視点で経営の柱を設定している場合が多い。

学力の向上、心の教育（道徳指導や生徒指導面での充実）、健康安全・体力の向上についての視点からである。人間形成の上からどれも軽視できないのだが、「徳育」を最重要課題に挙げている学校も少なくない。

ところで、青少年の非行・犯罪の発件数は、ここ数年減少傾向にあるといわれているが、犯罪の質的な面からいえば、凶暴・凶悪な犯罪はむしろ以前より増加しているのではないだろうか。人間関係の希薄さ、家庭教育力の低下、学校教育の崩壊などを理由とする国民総教育評論家の話は、納得もするが短絡的な見解もまかりとおっているように思える。

だが、確かに他人の心を思いやる気持ちも少なく、暴力的攻撃的な言動を発しやすく、また、それらの言動等に対して正せる勇気をあまり持ち得ていない子どもも多く、自己中心的になりがちであることは、今の子ども的一面であろう。課題解決的にことを見据えて前向きに対処する子どもが少なくなつたなど、私自身感じているところである。

しかし、この点に関して各学校は、経営の課題や課題解決のための具体的な方策の中に次のような活動をおして豊かな心や思いやりの心を培っている姿が見えてくる。ある中学校の取り組みを紹介する。

たとえば「道徳・学級活動の充実、豊かな人間関係作りプログラムの実践」や「一日の生活を振り返る時間の設定」「生徒会活動を充実し、熱い学校行事づくり・協働・創造・感動などの心の醸成」そして何より

も「生徒指導の機能を生かした授業の実践」を行っているなどである。

そして、その教育活動は、保護者や地域の方々に、「経営の説明」を行い、「成果の評価」を求め、それを「公表」するとともに常に「改善」につとめている。

さて、だいぶ前のことだが、五月三十一日、日本経済新聞の生活面の記事が目にとまった。「『子に伝えよう江戸しぐさ』思いやりでトラブル防ぐ」の見出しであった。

『日本各地から人が集まり人口が急速に増えた江戸の町では、住民同士が心地よく暮らすための工夫があった。腰をこぶし分だけ浮かせて席を詰め空席をつくる「こぶし腰浮かせ」や雨の日に互いの傘を外側に傾け、濡れないようにすれ違う「傘かしげ」などだ。そして『根底にあるのは互いに相手を思いやり、安全かつ安心して暮らすた

めの心がただけだ。雑踏でぶつからないように体を横に向けてあるく「蟹（かに）歩き」などは、大人はもちろん子どもも普通に身につけていた。『……』江戸しぐさは、教則やハウツー的にとらえるものではないことだ。『……』江戸しぐさは、守らなければとなく自分自身が気持ち悪いという生活習慣だ。』（『……』は紙面記事より引用）

この記事に触れ、共感するとともに、私は忘れていた自分を取り戻した。忙しさを理由に、わがままな行動をとっていたのではないかと。自己中心的な発想でこゝろに当たっていたのではないかと自省させられた。そして同時に何か得をした気持ちになつた出勤前のひと時であった。

（昭和五十一年・法卒）

法政 ガンバレ

屋代良洋



益々の活躍を祈念いたします。

文面の始めではございますが、私にとって本年度は激動の年でありませぬ。本年度の移動により、千葉県立岬高等学校から茂原市立南中学校教頭として赴任しました。高等学校と違って勝手がわからず苦労してはいますが、四ヶ月たった今、やっと落ち着いて地に足が着いてきたように思います。高校とは違い、水泳部の顧問として七月いっぱい千葉県国際水泳場に生徒引率で六日間行ってきました。「中学校の先生は大変だなあ。」と感じている今日この頃です。去年の今頃、野球部の顧問として、新チームと一緒に練習や練習試合にかけていったことを思い出すと人生って本当に良い意味でもそうではなくても面白いと思えます。

大学から送られてきた「法政連合会報」を読むと大学時代ゼミでお世話になった増田寿男先生が総長に就任し、また、私の高校時代の恩師、渡邊光夫先生が法政大学校友連合会監事に、笠原栄作先生が新年度広報部員になられました。大変嬉しく思っています。

さて、今年は北京オリンピックが八月から始まります。わが法政からも、水泳・陸上競技・ウエイトリフティング・フェンシング・サッカー・野球等、多数の現役学生や卒業生が活躍します。陸上の金丸選手や卒業生の為末選手、野球の偉大な卒業生、山本浩二・田淵幸一両コーチ、サッカーの本田拓也選手等法政の学舎に集いし輩たちに声援を送りたいと思えます。

また、私事ですが、大学ラグビーの季節がやってきました。ここ二年ほど低迷している法政のランニングラグビーに活をいれるべく、応援に行きたいと思えます。ぜひ今年こそ茂原支部で応援団を募り、一緒に行きましょう。

(昭和五十五年・経卒)



四半世紀ぶりに法政に行ってみたら、〇〇だった

成嶋まさる

六月二十八日土曜日午前九時、東京へ行く用事があったため、気まぐれに法政にいつてみることにした。

飯田橋の駅を下りるとサミットが近いせいか、やたらに警察官がいる。私はなにも悪いことをしていないのだが、目を合わせるのを避け、何気なく前方を見上げると見慣れない高層ビルが見える。東京で高層ビルを見ると、なんでも六本木ヒルズかと思ってしまうのだが、それは法政の新しいボアソナードタワーであった。昔の受験生は、場所が分かりづらい人も多かったと思うが、今はタワーのおかげで少なくとも駅から迷う人はいないだろう。

か、目もくれない。駅前の警察官とは、かなり緊張感がちがう。サミットが近くても、ここは関係ないのか。よい伝統だ。構内に入ると、立て看板がない。あのオレンジ色の文字で「〇〇打倒」と書かれた看板がないと法政のような気がしない。

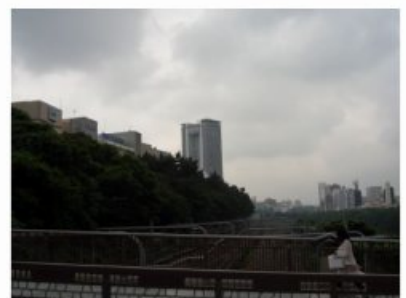
また土曜日のせいか、学生もほとんどいない。なんだか、キャンパスにいるのか、オフィスビルにいるのか、分からなくなってくる。でも、きれいで静かなのも悪くない。タワーに入ってみると二十五階にレストランがある。しかし、レストランは、土曜日は休みでやっていない。しかたなく、窓から写真だけ撮ってみる。高層ビルもよく見える。六本木ヒルズはどれだろうか？ 今時の学生は、二十五階のレストランで昼飯を食べるのと思うと、渋すぎるぜ、法政。ちなみに、タワー地下一階にも食堂がありパスタ三百八十円。昔の校舎の地下一階の学食も

健在で、カツカレー（Mサイズ）三百九十九円。地下一階の床屋もまだあって、二千五百円。私が卒業するくらいになって新築された図書館は、学生証がないと入館できないが、それ以外はまったく自由に出入りできる。みなさんも、平日に時間と少しのお金があれば、二十五階のレストランで食事をして、地下一階の床屋に行ってみてください。昔と違って、今の法政は〇〇だと思うでしょう。〇〇に何が入るか、人によって違うでしょうが、貴重な体験ができると思いますよ。

(昭和五十七年・法卒)



写真(上)キャンパスからみあげるボアソナードタワー(B.T)
(左)B.T 25階から見た新宿方面
(右)飯田橋駅から見えるB.T
成嶋まさるさん撮影



東金市・八鶴湖界限

清宮義治

皆さんは、東金の街中にある「八鶴湖（はっかくこ）」をご存じでしょうか。東金駅から歩いて五、六分のところにある周囲一キロメートル弱の小さな湖です。かつて、ここが私たちの遊び場所でした。鮒釣り、ボート遊びに水遊び。夏には、弁天様の陰で着替え、泳ぎもしました。それほど綺麗な水でした。この湖の周辺には、今年創立百周年を迎える東金高校、その隣には鳳凰山本漸寺、対岸には安国山最福寺があります。

東金高校の前身である東金高等女学校は、明治四一年、徳川家康、秀忠、家光の三代が鷹狩りの際に使用した「東金御殿」の跡地に建てられました。この御殿は、慶長一八年から一九年の二年間かけて建てられ、部屋数は四〇を超えてる広大な建物でしたが、寛文一一年に取り壊されました。この御殿が建てられる前は、天正一八年に小田原の北条氏政が豊臣秀吉に敗れるまで東金と土気を治めていた酒井氏五代（定隆、隆敏、敏治、

敏房、政辰）の居城「東金城」がありました。東金高校のある東金市谷（やつ）の地は、昔から何かを建てるに相応しい「良き場所」であったようです。

鳳凰山本漸寺は、もともとは市内松之郷にあり、同夢山願成就寺といいました。前回ご紹介した鎌倉時代「久我台城」を居城にした北条氏の菩提寺でしたが、酒井定隆が大永元年に東金城を築いた際、松之郷より現在の地に移し、改称させました。

安国山最福寺は、大同二年伝教大師最澄によって、天台宗の寺院として創建されました。文明一一年京都妙満寺十日蓮宗に改宗しました。境内には、「切られ与三郎」のモデルになった江戸長唄の名家である四代目芳村伊三郎のお墓があります。

休みの日には、家族揃って



八鶴湖界限の散策に出掛けようと考えています。皆さんも、どうぞ出掛けてみてください。

（昭和六十一年・経卒）



（東金市の八鶴湖）

法政大学市ヶ谷田町校舎

昨年四月に工学部の一部が独立し、デザイン工学部が誕生しました。そのデザイン工学部のキャンパスとして、旧62年館と旧通信教育学部館が本年三月にリニューアルオープンしました。

（左の写真は旧62年館）



ひとつの目標

平川忠勝

私は法政大学経済学部商業学科を通信教育で卒業いたしました。卒業した年齢は四十五歳でした。仕事は当時の国鉄でして、助役試験に合格して、勤務したところが札幌鉄道管理局経理部会計課で、職場の中の半数以上が大学卒業でした。新聞を見ていましたら、通信教育で大学卒業という記事があり、彼らに負けていけない気持ちで、軍資金を貯め、翌年入学しました。入学許可証が来たときはうれしかった。ですが、教科書が送られて来た時は、沢山来たもので、すから、びっくりしましたが、教養科目で選択科目でしたので安心してました。一つの目標に向かって邁進することが出来ましたが、レポートの提出で何度か再提出があり、専門科目は本当に難しかったです。スクーリングは二年生のときが初めてでしたが、当時国鉄問題で大きな話題になっていましたので、佐藤昌一郎教授が「君たちは通信教育の学生であるが授業は厳しく行い、採点も厳しくする」との言葉にみな目の色が変わつ

たことを思い出します。結果は合格でしたが、大学とはこういう授業をするのだとわかりました。私たちはスクーリングでしか授業を受けることが出来ませんが、国鉄が民営化で東京に來ましたが、仕事は会計課の勤務でしたが、秋スクーリングを受講できる機会を得ました。確か数科目受講しました記憶がございません。専門科目にてござりましたが、どうやら卒業することができました。神宮球場にも何回か応援に行つたことがあります。学生証を見せるのに、会社の写真票を見せて、これは違ふと言われたことが何度もありました。法政大学祭の時に、子供たちを連れてきて、見学させたこともあります。良い思い出でした。卒業してから十五年以上も経ちました。辛いこともありました。楽しかったこともありました。卒業後すぐに同窓会に入りました。

して、今は役員をしております。大標を達成することが出来ましたが、ひとつの目標を達成することが出来ました。村串教授の指導で、法政大学経済学部同窓会通教部会を今年立ち上げ、今活動しています。私は初代部長になりました。ひいては、頑張りたいと思います。ひいては、通信教育の向上ばかりでなく法政大学の格の向上にも前進していきたいと思います。

(平成五年・経卒)



測量設計全般・土地建物登記

株式会社三陽測量設計

古山弘 (昭和49年工卒)

長生郡陸沢町小滝 475-1
TEL 0475-44-1869



法政大学ホームページ
を見よう

渡邊支部長が 校友連合会監事に再選

本年六月校友連合会の役員改選が行われ、茂原支部支部長の渡邊光夫氏が校友連合会監事に再選されました。渡邊氏は役員推薦委員会の推薦を受け、六月二十一日の校友連合会全国団体責任者会議で正式に再選されました。任期は三年間です。今後のご活躍を期待いたします。

変わりゆく 市ヶ谷キャンパス



(上) 正門前



(右) 第一校舎跡



(左) 富士見坂校舎
中庭

支部に対するご意見・ご要望等
があれば下記までご連絡下さい

連絡先

299-4415 睦沢町小滝 475-1

三陽測量設計内 古山弘

TEL 0475-44-1869

FAX 0475-44-1959

Eメール sanyou@chiba.email.ne.jp

残暑お見舞い
申し上げます



編集後記

巻頭の、秋葉さんの追悼稿にありますが、今年一月に、大先輩の末石さんが今年一月に亡くなられました。末石さんは私が言うまでもなく、一九九〇年以後の法政大学の改革を引っ張ってきた第一人者でありました。今日、やっとその成果が現れ、大学の社会的評価が高まってきた時にこの世を去ら

れました。誠に残念でなりません。

持ち前の迫力で多くの人を引き付け、力づけてきました。そして、幅広い交友関係をもち、一昨年の茂原支部支部総会に野球評論家の関根潤三氏をお招きする件では、末石さんの友人ということでノーギャラで来て講演までしていただきました。他にも末石さんの交友関係は多岐にわたります。そのお人柄を伺うことが出来ました。秋葉さんと同様私も、末石さんのような方はもう二度と現れないと思います。

心からご冥福をお祈りいたします。

茂原支部は、支部長を中心に、これからも末石さんの遺志を継いで頑張っていく所存です。会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

まだまだ残暑きびしい日が続きますが、健康に留意しご活躍されますよう祈念いたします。

(古山)